



後援会 だより Vol.23

令和6年1月発行

【安心できるまちづくり活動報告】
桶川市議会議員 山中 敏正
連絡所 ☎ 048-787-3796



3月議会は2/21開会(予定)

<https://www.yamana-toshimasa.com/>

市議会について、桶川市HPから本会議のライブ中継をご覧ください。

桶川市議会スマート中継

検索☞

日足も少しずつ長くなり、近づく春の足音が感じられる昨今、皆様におかれましてはお健やかに過ごしのことと存じます。

2023年を振り返ると、特に物価高騰を身近に感じた1年だったのではないのでしょうか。新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、コロナ禍で中止となっていたイベントが再開されるようになりました。10月に勃発したイスラエル・パレスチナ紛争では、激動の中にある世界情勢をさらに悪化させました。こうした社会経済情勢が大きく変化し厳しい状況にあっても、時代の変化に対応しなければなりません。桶川の明るい未来に向けてこれからも取り組んでまいりますので、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

令和5年第4回定例会が、12月11日から12月26日の16日間開催され、令和5年度桶川市一般会計補正予算及び条例の改正に関する議案審議をおこない、可決・承認されましたので主な内容をご報告いたします。

☑令和5年度12月補正予算の概要

【住民税非課税世帯重点支援給付金】

「デフレ脱却のための総合経済対策」において、物価高騰の負担感が大きい低所得世帯(住民税非課税世帯)の負担軽減を図るため、1世帯当たり7万円をプッシュ型で追加支給する。

1.対象者:基準日において桶川市に居住し、世帯全員の令和5年度分住民税が非課税の世帯 2.基準日:令和5年12月1日

※ 住民税が課税されている者の扶養親族等のみからなる世帯を除く

◎ スケジュール

令和5年度

令和6年度

事業名	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
住民税非課税世帯重点支援給付金給付事業	対象者抽出	確認書発送					
※1世帯当たり7万円			<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(転入者等) 申請受付期間【5月31日まで】</div>				
			<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">支給期間【6月30日まで】</div>				

【子育て世帯物価高騰支援事業】

エネルギー・食料品価格等の物価高騰の影響を受けている子育て世帯や地域事業者を引き続き支援するため、18歳までの子どもがいる家庭に対し、市内店舗等で使用可能な「(仮称)桶川市内共通子育て世帯お買い物券」を配布することにより、家計の負担を軽減し、市内経済の下支えをする取組の支援をする。

対象者	令和6年1月1日時点で桶川市の住民登録があり、平成17年4月2日～令和6年1月1日生まれの児童を養育している家庭(約6,500世帯)の保護者	
配布するもの	対象児童1人あたり5千円分の桶川市内共通子育て世帯お買い物券(500円×10枚/商工会発行)	
スケジュール	2月下旬～	事前案内発送・受取辞退者の受付
	4月上旬～	子育て世帯お買い物券をゆうパックで送付
	4月上旬～7月31日頃	お買い物券使用期間
お買い物券発行額	11,000児童×500円券×10枚=55,000千円分(発行総数110,000枚)	

【安心できるまちづくり活動実績】

こちらの現場は、①市道17号線の歩道部と②市道2290号線の舗装を本復旧したものです。ともに経年劣化による亀裂や段差があり、歩行者がつかまず転倒する危険性があったため、普段利用されている住民の方から要望を受けていました。小学校の通学路にもなっていることから、施工した事で平坦になり、安全に歩くことができるようになりました。



施工前



施工後



施工前



施工後

☑12月議会定例会 一般質問より 【12月定例会では19日(火)の3番目に登壇し、4つの項目について質問をいたしました。】

○ 桶川市の持続可能な公共交通について

バス・タクシーといった公共交通分野やトラック運送業において、2024年4月から、労働時間に関する規制が変更となることにより生じる、いわゆる「2024年問題」による人手不足が深刻な状況であると言われております。

本市でも、民間路線バスやタクシー、市内循環バスも運行しているところで、この2024年問題、市民生活にも大きな影響を及ぼすことが懸念されています。そこで、この2024年問題に対して、持続可能な公共交通を維持するために、市の考えを伺いました。

□質問内容 Q A

Q1. 「市内循環バス2024年問題の影響」について伺う。

A1. 市内循環バス事業者から乗務員等の人手不足は深刻な状況であると伺っていますが、来年度の市内循環バスの運行には影響ないことを確認しています。

しかしながら、今後、持続可能な公共交通を維持していくためには、ルート再編や時刻の見直し等の対策を講じる必要性も懸念される所です。

Q2. 2024年問題を踏まえ、持続可能な地域公共交通を目指すためには、市内循環バスだけではなく、既存のタクシー会社等の協力も必要かと思われまます。そのためには、デマンド交通の導入を進めるべきと思いますが、市長のお考えは。

A2. 本市独自のデマンド交通については、持続可能な公共交通を補完する移動手段として、交通弱者を対象者とした「福祉施策」として、今後検討していきたいと考えていますので、次回開催予定の地域公共交通会議で、その旨を報告させていただく予定です。

また、今後は、桶川版デマンド交通の導入について、地元のタクシー協会にも相談をし、来年度中には試験運行を実施していきたいと考えています。

≪要望事項≫ 高齢者や障がい者の方などの移動手段として、タクシーを利用して、自宅と公共施設や病院、商業施設など安心・安全に低額で移動することができる桶川版デマンド交通(ドアtoドア)の導入に向けて取り組んでください。

○ 江川水域の水害対策・荒川中流部の堤防強化について

2019年10月12日に、過去最強クラスの台風19号が大型で強い勢力を保ったまま伊豆半島に上陸し、これまでに経験したことのないような記録的な大雨が降り、大規模な河川氾濫に見舞われました。私の住む川田谷地区では、荒川の水位上昇により避難指示が発令され、無堤防箇所から溢水をし、家屋への床上・床下浸水や農作物に甚大な被害が発生しました。

今後このような災害に備え、溢水した場所には早期に堤防を築いていただき、荒川の水位上昇に伴い樋管を閉めた後の対策が急務となります。特に、宮下樋管は江川流域、上尾市の領家から北本市の榎戸橋(県道33号線/東松山・桶川線)まで冠水すると江川を横断している県道12号線や市道が通行止となり迂回処置をとるなどの交通障害がおこります。このような被害に対する課題解決に向けた取組がこの4年間でどこまで進んでいるのか、検証させていただきたく質問いたしました。

□質問内容 Q A

Q1. 「宮下樋管の改修について」①水理解析の結果②結果を受けての断面構成③樋管の改修時期④排水機場整備の可能性について伺う。

A1. 県では現在、水理解析を実施中と伺っております。宮下樋管の改修については、今後、水理解析の結果を踏まえて、国と江川の管理者である県で、樋管の断面構成、改修時期及び排水機場の整備について協議するものと考えています。

≪要望事項≫ 江川水域の冠水対策を防止するには、宮下樋管の改修と排水機場の整備が必要です。引き続き、県や国との協議を進め、一日も早く整備着手に向けた取組を要望する。

Q2. 「荒川中流部の堤防強化について」、整備を進めるにあたり、工事をどこから着手する予定となっているのか伺う。

A2. 荒川上流河川事務所からは、令和元年で浸水被害の多い無堤防区間を優先的に工事着手する予定と伺っています。

Q3. 堤防整備の工事にあたり、無堤防区間である太郎衛門橋北側から、飛行学校桶川分教場まで一体的な堤防整備を国へ要望していただきたいが、如何か。

A3. 太郎衛門橋付近の堤防整備を計画していることは伺っていますが、一体的に整備することについては、国へ要望してまいります。

2019年10月13日(日)の状況📍 ①

① 台風19号の影響で荒川が増水し、無堤防区間から溢水をした現場。

② 江川の水位が上昇し県道12号線、滝の宮交差点が冠水して通行止めとなる。

